

ポンペイの輝き展

於サントリー美術館
平成18年11月23日

私とイタリア人とのつき合いは、約40年前(1967)パキスタンで、イタリア、フランス、アメリカ、日本の5カ国で総合コンビナートの建設を約5年間に亘り行ったとき、紅茶を楽しみながら自分の国の良いところを紹介したときからです。その時にイタリアとは何と古い歴史のある国だろうと驚きを持って話を聞いたものです。

その後数回イタリアを訪問しましたが、2005年に始めてポンペイを訪問しました。

(訪問の様子は、「ポンペイ(Pompeii)遺跡紀元前8世紀の生活を見る」で紹介しています。)

ポンペイは、ヴェズヴィオ火山の爆発によって滅びた街です。西暦79年8月24日、恐怖の大王は降ってきた。

紀元前8世紀に建てられたポンペイは、紀元前

80年にローマの支配下にはいった。

当時のローマ人から見て、ここポンペイは南国の楽園だったのだろう。

金持ちが集まっていた雰囲気か今でも遺跡として残っている。当時の人口は2万。公共施設が次々と建てられ、建物の構えはローマにひけをとらないほどだった。

こんなローマ人たちが集まっていたポンペイだからこそ、恐怖の大王が降



ってきたのかもしれない。

真夏の8月にヴェズヴィオ山が突然、大爆発を起こしたのである。

ポンペイの町にも大量の石や灰が積もり、噴火の翌日までにその灰の深さは9~1mにも達した。

屋根の損壊や有毒ガスによる窒息による犠牲者の

数は人口の1割、二千人と考えられている。

火山灰の下に飲み込まれたのは、放蕩なローマ人だけではなかった。

彼らに使われた奴隷やその家族たちも皆、死んでいった。

当時の人は、奴隷と言えども同じ人間としてつき合っていた、それが遺品の中に残っていることは嬉しい事です。S.O

甘辛チャンネル

心優しい中学生達

私用で高槻市民会館の近く迄出かけました。近くの神社に紅白の幕が張られていました。

何故だろうと思いつきながら歩いて行きますと晴れ着を着た幼女とその御家族が出てこられました。

そう今日は11月15日。7・5・3のお祝いの日でした。とおく遠く昔の自分の事、また、すっかり成人して家族を持つて

いる3人の子供達のあの日のお祝いが昨日の日の事に懐かしく想い出されました。千歳飴の袋をしっかりと持っている幼女とご家族連れに思わず「おめでとございます!!」と声をかけました。

「ありがとうございます」の返事にほのぼのとした心になりました。丁度、高槻市立第1中

学校の正門近くを歩いて行かれました。

突然、中学校の窓から女生徒達の「7・5・3おめでとう!!」の大合唱。ご家族も思わず「ありがとう!!」と答えておられました。

何と頬笑ましい情景。いじめとか、自殺とか中学生達の痛ましい事件を、マス・メディアで知る度に悲しい時代になってと憂います。

でも、この純心な中学生達のハッピーコールにとってもとても温かい心になりました。

皆、純な心、喜びを表す心、を持つている。皆、良い子供達なのです。大人達は、温かい心で見

守って生きたいと..... N.Y

味WAY

白菜の中国風酢漬け

材料 生姜 1/2 かけ

白菜の軸 三百g

赤唐辛子 小一本

調味料 塩小匙 1

砂糖大匙 3

酢大匙 4

ごま油大匙 1

料理方法

①白菜の軸は5ミ×5ミ長さの棒状に切ります。

②赤唐辛子は種を除き小口切り、シヨウガは千切りにします。

③鍋に調味料と唐辛子を入れて煮立て、熱いうちに白菜にかけます。

シヨウガを加え2、3時間以上置いて、味をなじませます。 M.K

編集後記

カレンダーも一枚を残すのみ、日に日に気温が下がってくるのを感じます。寒さでからだに力が入る感覚を、突然思い出しました。寒さに負けないう様、しっかり冬仕度していきましよう。 S.N

サザンカ 四季彩

花の少ない晩秋から初冬にかけ、朝夕の冷たい空気に誘われる様に咲き出す。

椿(つばき)の漢名(中国名)「山茶花」がいつのころからかこの「サザンカ」の名前として定着した。日本が原産地。

江戸時代に長崎の出島のオランダ商館にきていた医師ツンベルクが持ち帰り西欧で広まった。

花はとても良い香り。1枚づつ散る藪椿は花ごと散る。開花時期も山茶花は秋から冬咲き、藪椿は春になって咲く。

寒椿は、葉っぱも花も開花時期もほぼ山茶花と同じでなかなか見分けにくい。花木の背丈で区別するくらいです。

「山茶花と雀のこぼす日和かな」子規
花言葉: 困難に打ち勝つ、ひたむきさ。

謙譲、愛嬌。 T.N

